

1998年7月14日

フジテレビジョン

広報局長 御中

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目5番4号  
未広ビル7階

TEL/FAX 03(5521)1733

野生生物保全論研究会 (JWCS)

## 抗議文

当会（野生生物保全論研究会）は、野生生物保全の理論を探求し、その理論に基づいて保全活動を行うことを目的とする非営利・非政府の組織（NGO）であり、会内に「トラ保護基金」（「トラ保護プロジェクト」）を設け、鋭意トラの保全活動に力を注いでおりますが、1998年7月9日午後7時放映の貴社系バラエティー番組「協力！木スペ120分」中の芸能人がトラの肉を珍しい料理として食べる一連のシーンには重大な問題点があると考えます。そこで、それらの点を以下のとおり指摘して抗議し、あわせて貴社に対応していただきたい点を要望いたします。

### 問題点

本件番組は、視聴者に対して次のような影響を与える危険があります。

- ・トラの肉料理、さらにそれ以外のトラの身体部分を食材として（トラのペニスなど）、また虎骨が含まれる漢方薬などに対する需要と消費行動を引き起こし、絶滅の危機にあるトラの保全に悪影響をもたらす危険がある。
- ・トラに限らず、珍しい、言い換えれば希少な野生生物を贅沢のために消費するなどの需要と消費行動を引き起こし、そのような野生生物の絶滅の危機に拍車をかける危険がある。

（こうした危険が認められる根拠については、下記の「問題点の背景」参照。）

### 貴社に対する要望

- ・本件番組がもたらしかねない効果や、一般視聴者からの批判的反応をふまえて、トラの保護と野生生物消費の問題点をテーマとした番組を制作され、主体的に貴社の番組製作態度のあり方を一般視聴者に示されること（なお、そのような番組制作に当たってご参考となりそうな資料を同封いたしました。詳細についてはお問い合わせいただければと思います。）
- ・絶滅のおそれのある野生生物の利用や消費にかかわる番組を制作されるにあたっては、上記のような問題点を十分考慮されること。その際、当会などの野生生物保全にかかわる民間団体の意見をできる限り参考にされること。

### 問題点の背景について

- ・野生のトラは、1種5亜種が現存するのみであり、3亜種は今世紀に絶滅、残る5亜種の個体数を合計しても5000頭から7000頭程度に過ぎません。この数は今世紀初頭のトラの総数約10万頭と比較するとわずか5%です。
- ・とりわけ、1990年代に入って大きな危機がトラに訪れました。その理由は、虎骨を中心としたトラの身体部分の消費が誘発した密猟と違法取引です。  
虎骨の粉末を含んだ錠剤や虎骨酒その他の漢方薬は、歴史的に関節の痛みに効果のあるものあるいは強壮剤として使われてきましたが、1990年代にその需要が増大したといわれています。
- ・そこで、この問題が野生生物の国際取引を規制する「ワシントン条約(CITES)」で取り上げられたり、政府間の議論の場である「グローバル・タイガー・フォーラム」が開催されるなど、トラの消費を抑制するための国際的な努力が展開されています。各国においても、中国においては、1993年に虎骨の販売が禁止されるなどの対応がとられています。  
特に、本年(1998年)は、寅年ということで、NGOなどがトラの消費抑制キャンペーンを展開しているところです。
- ・日本の市場をみると、中国や韓国ほどではないにせよ、虎骨酒の販売は漢方薬専門店や中華街で容易に確認でき、虎鞭(トラのペニス)が食材として販売されているといった状況にあります。1990年から1993年にかけては、57,566kgと68,747個の虎骨入りの錠剤が輸入されています。
- ・実のところ、日本は、トラに限らず、象牙、ベッコウ(タイマイ)など絶滅のおそれのある野生生物の消費大国です。  
ワシントン条約の対象としている種の国際取引で、日本政府が合法的なものとして条約当局に報告したものだけで、年間2万8000件以上にものぼります(1993年)。象牙の印鑑がそうであったようにいったんブームに火がつくと大量の野生生物(製品)が日本になだれ込み、野生生物の生存に重大な影響を与えてきました。

以上の状況から、本件番組には冒頭に述べたとおりの問題点があり、今回の要望をさせていただきます。

以上

添付資料

- ・
- ・
- ・